

可茂農林事務所の普及活動状況（8月）

今月の重点活動

■ 多収性米「ほしじるし」 生育、病害発生状況調査

可見地域では、主力品種「あさひの夢」から多収性品種「ほしじるし」へ、来年度切り替えを予定しており、JAめぐみとの連携して栽培暦の作成に取り組んでいます。

出穂期調査の結果、慣行品種「あさひの夢」が8/18(昨年8/17)に対し、「ほしじるし」は8/14(昨年8/13)となり、「あさひの夢」と比べ4日程度出穂期が早いことが確認できました。

また、新技術導入普及支援事業にて設置した「ほしじるし」実証ほ場においては、紋枯病初発時に追加防除を行った結果、発生株率、発生葉位ともに低く抑えられており、追加防除の効果を実証できました。

引き続き生育調査等を行い、品種特性を把握するとともに、栽培暦への反映を図り、担い手の経営安定につながるよう支援していきます。

(地域支援第二係・加藤昌亮、加藤瑞穂)



【出穂期の「ほしじるし」】

売れるブランドづくり

■ トマト 中間目揃え会の開催

8月4日に、美濃白川夏秋トマト部会の出荷中間目揃え会が開催され、生産者約40名が出席しました。

農林事務所からは、後半の出荷量確保のため、障害果（裂果、尻腐れ果など）対策や灰色かび病対策としての薬剤のローテーション防除などについて説明するとともに、GAPの取組みを推進するため、GH評価法に関する説明も行いました。

また、今年度配備されたタブレットを活用して、トマト栽培情報を発信するLINEグループを立ち上げ、参加を呼び掛けました（現時点で18名が参加、情報発信は3回実施）。

今年は、記録的な長梅雨と日照不足の影響で、8月に出荷できる分の着果が少ない見込みとなっており、9月以降、安定的に出荷するための技術支援を行っていきます。

(園芸産地支援係・矢嶋雄二)



【中間目揃え会の様子】

■ かぼちゃ トミちゃんかぼちゃ品評会の開催

8月7日、JAめぐみの富加支店にて、JAめぐみのかぼちゃ生産者協議会品評会が開催されました。平成30年度に、JA全域を対象とした協議会が設立され、新たなブランド農産物として生産拡大を目指しています。

今年は、長雨、日照不足のため、全体的に昨年より小玉傾向で、出品点数も18点と昨年の31点より少なくなりました。

しかし、出品されたかぼちゃは、大きさ、色などの品質は高いレベルで揃っており、審査も僅差で争われました。

品評会に出品されたかぼちゃは、翌日JA直売所で重さ当てクイズなどのイベントに活用されるとともに、かぼちゃプリンなどの加工品とともに販売されました。今後も、かぼちゃが地元特産品になるように支援していきます。

(地域支援第一係・斉藤政隆)



【審査員と協議会関係者】

■ 花 ファンシーマリエ栽培でドライミストの効果を検証

夏期の高温対策のため、東白川村の切り花フランネルフラワー「ファンシーマリエ」生産者のハウスに、県農業技術センターがドライミストを設置し、今年は5月下旬から試験稼働しています。

ドライミスト導入ハウスの方が、7月の採花調査では採花数が増え、かつ大輪になる傾向が確認でき、8月の生育調査では茎長が長くなる効果が確認できました。

8月13日には農業技術センター研究員と農業経営課花担当と共に生産者を訪問し、ドライミストの有無や栽培方法の違いによる作型分散等の説明を行いました。

現在、秋作出荷に向けた本ば管理が始まっており、引き続き調査を継続してドライミストの効果を検証していきます。

(園芸産地支援・広瀬貴士)



【ドライミストの稼働状況】

多様な担い手づくり

■ 指導農業士 全体会議の開催

8月6日、可茂総合庁舎にて可茂地区指導農業士会全体会議を開催し、指導農業士8名が出席されました。新型コロナウイルス感染症の影響で、総会を書面開催とするなど、従来の活動ができず、今回が今年度初めての会合となりました。

可茂地区指導農業士会では毎年度、農業大学校生の先進農家等派遣学習を受け入れており、今年度も受け入れることが承諾されました。

また、今年度策定予定の次期「ぎふ農業農村基本計画」に対する意見交換を行い、新規就農者等の担い手育成について、就農後のフォローアップの充実が必要であるなどの意見・要望が出されました。

今後も、担い手育成などに尽力される指導農業士の活動を積極的に支援していきます。

(地域支援第二係・加藤昌亮)

■ 新規就農者 就農状況確認に立ち会い

農業次世代人材投資事業の支援を受けている可茂管内の新規就農者14名に対する就農状況確認調査が、8月中に実施され、農林事務所担当者も同席しました。

J A全農いちご新規就農者研修施設で研修し、今年6月に富加町で農業経営を開始した就農者は、4月から育苗施設の建設を行い、目標としていた6月末までに採苗を終えることができ、9月からは本ほ場で定植作業が始まります。農林事務所からは「1年目の栽培となるが、売上高や出荷量など明確な数値目標をもって取り組んでほしい。」などの助言を行いました。

今後も、新規就農者に寄り添い、ともに課題解決を進めていきます。

(地域支援第二係・加藤昌亮、園芸産地支援係・熊澤良介)



【就農状況確認】